

修学院棚田， 荒起こし



石割京大農園
Ishiwari Kyoto-univ. Farm

3月21日春分



五十嵐泰正著

原発事故と「食」

市場・コミュニケーション・差別

食へる／食へない……
不毛な対立を乗り越えるために

震災から7年
今なお
問題をこじらせる
ものは何か

中公新書 2474
定価 本体820円(税別)

修学院離宮の棚田， 6月4日の田植えに向けて荒起こし開始。刈り株をすき込み， 土壌を乾燥させます。今年の水稲作が始まりました。フクシマ産農作物， 魚介類の「風評」被害について， その現状や「風評」の根拠について， 納得できる分析を発見しました（←）。農作物の残留放射能について， 千葉県柏市で野菜生産者と消費者の対話集会を主宰してきた方で， 実践者ならではの経験が説得力の源， なるほどなあ…という感じ。ヒトはさまざまな発見や工夫を通して文明を作り上げてきましたが， 土に生えた植物から栄養を摂取するメカニズムには今後も変更の予定なし。天災はそれを忘れるヒトへの警告です。